

臨床研究啓発のための認識に関する 質的研究(抜粋)

厚生労働科学研究費補助金

平成19年度厚生労働科学特別研究事業

主任研究者:楠岡英雄

分担研究者:是恒之宏、武林亨、山本晴子、小林史明

目的: 「臨床試験・臨床研究」という言葉の認知・浸透度を把握するとともに、国民の理解内容の広がりと深まりを構造的にとらえること

研究方法: WEBアンケートおよび留置きアンケートを実施

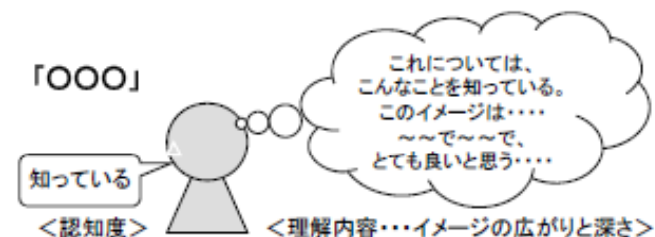
調査分析手法: テキストマイニングによる「連想ネットワーク分析」

調査対象者: 「一般生活者」「患者」「医療関係者」

調査期間: 2008年1月～2月

あるメッセージ(キーワードやシンボル)が

どれだけ認知されているか……は定量調査で把握できるが、
どのように理解されているか……



つまり、どんな情報を得て、どんなイメージをもっているのか
それは良いイメージなのか悪いイメージなのかという理解の中身を把握するには、
生活者が抱くイメージ(言葉)を丹念に聞き取る定性的な調査が必要。

定性情報を定量的に処理することによって、理解内容を構造的に数値化して把握：
「連想ネットワーク調査」

<調査手法>

- ・調査対象者にあるキーワード(またはマーク、ロゴ)を見せ、そのキーワードから連想する言葉を自由連想法で記入してもらうアンケート調査
- ・連想した言葉のそれぞれについて、ポジティブなのかネガティブなのか、何から連想したのかを確認する。
- ・連想する言葉の発言順位もイメージの強さとして反映する。(一人当たり発言量が多い場合)
- ・アウトプットとして、「連想ネットワークマップ」を作成。

<活用>

- ブランドイメージの把握や競合との比較
- 自社イメージ 時系列比較
- 商品開発の「芽」発見 (コンセプトワード間から生まれる文脈発見)
- 消費者意識の変遷
- ネーミング開発



「臨床試験・臨床研究」からの連想 <一般生活者 全体>

